

令和八年 春の課題作文・読書感想文

〈塾長講評〉

読書感想文(小学生対象)・課題作文(中学生対象)のコンテストを始め、十九年目となりました。テストでは測れない生徒の光を見つきたい、伸ばしたいという思いで取り組み続けています。

さて、今回のコンテストでは小学生向けの読書感想文について「金賞受賞作品該当なし」という残念な結果となってしまいました。あらずじばかりだったり文字数が少なすぎたりするものが全体的に目立ちました。感想文である以上、自分自身の現在または過去のエピソードと結びつけて感じたことや考えたことを述べたり、物語から得た学びを述べたりして欲しいものです。また「八百字以内」という条件ならばその九割の七百二十字以上は書く癖をつけましょう。以後の参考にしてください。

なお、銀賞受賞作品は二つ選出されています。金賞に今一步届かなかったのは、字数の少なさに加えて読み手には物語の情景がなかなか浮かんでこなかったことが挙げられます。読書感想文であつても望ましい「型」がいくつかあると私は考えます。古典芸能の「守破離」という言葉が示すように、まずは望ましい「型」を自分の中に取り入れましょう。その上で自分らしさを出すように心掛けて欲しいと思います。

続けて中学生向け課題作文についてです。観光地での二重価格導入の動きからオーバーツーリズムの問題と観光立国の推進について、課題文や資料に目を通して読み取れたことや自分自身の意見を述べ

る形式でしたが、こちらは二つの金賞作品と三つの銀賞作品が選出されています。金賞一つ目の作品では昨年訪れた日産スタジアムに對して抱いたリアルな印象が、二つ目の作品では一つのカフェのリーダーとなった経緯と理由が述べられていました。二つの作品とも課題を「自分ごと化」して過去の体験と結びつけようとしています。そして、こういった姿勢が作品全体に個性と力強さをもたらしているように感じました。

実は今回、実験的にAIにも課題作文を作成させています。詳しくは別途コラムで紹介しますが、AIの作品も素晴らしかったです。しかしながら前述の二つの金賞受賞作品にあった、読み手の共感を誘うようなものを感じ取ることはできませんでした。AIからは引き出せない、生身の人間の言葉ならではの強みがあるということですね。実体験を通じて得られた言葉は読み手の共感や共鳴を引き出して文全体の説得力を高めていきます。ぜひそのような言葉を自分自身の中にたくさん蓄えていってください。

最後になりますが、当塾の全講師も中学生向けの課題作文に挑戦しています。そのうちの二つを優秀作品として公開します。二つとも二重価格に賛成の立場で書いてありますが、二重価格反対派や消極派の人に対しても配慮しながら丁寧に持論を展開しています。皆さんが目標とするのにふさわしい出来栄えですのでぜひ目を通して自分の中に取り入れられるものを探してみてください。読めば分かりますが、やはり実体験がさり気なく織り込まれています。AIには難しい、実体験から得られる言葉を手に入れて使いこなせるようにしていくことは今後の人生にプラスをもたらすと確信しています。